

# 地域との共生



摂津本山駅橋上駅舎  
(平成25年秋完成予定)



「山陰・なかうみキャンペーン」  
観光PRイベント



白浜駅構内落石止め柵よう壁への  
バンダ絵塗装

## 基本的な考え方

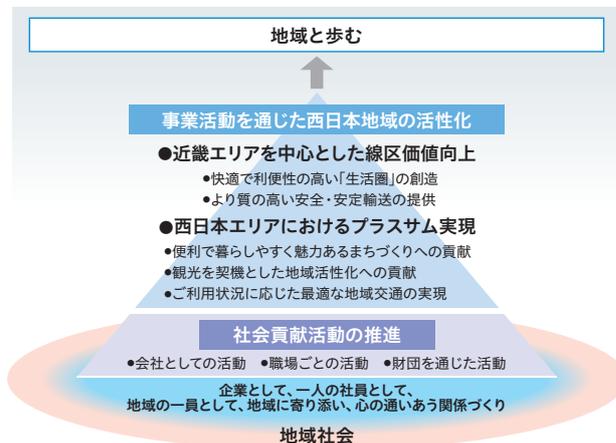
鉄道を核に事業を営む当社は、地域を離れては存在し得ません。地域とともに歩む企業として、事業活動を通じて、地域及び当社の持続的発展を実現していきたいと考え、昨年、中期経営計画見直しのなかで、新たな戦略として「地域との共生」を掲げました。

地域起点の発想に立ち、地方自治体や他交通機関等との連携を強化し、JR西日本グループの事業活動を通じて、西日本地域の活性化に取り組みます。

そのベースとして、「安全」「地球環境」「社会福祉」「鉄道文化」「地域社会」の5分野を中心とした、地域に根ざした社会貢献活動を推進します。

これらの活動を積み重ね、地域、社会から信頼される企業となることを目指し、地域とともに歩んでいきます。

## ■地域との共生 全体像



→取り組み事項の詳細はP61～62をご覧ください。

## 重点取り組み事項に関する実績

### ■事業活動を通じた西日本地域の活性化

#### [近畿エリア]

- ・滋賀県との包括的連携協定を締結
- ・当社で初めての認可保育所を誘致(JR西宮駅NKビル、JR放出駅NKビル)

#### [西日本エリア]

- ・観光を契機とした地域活性化への貢献に向けて、「来なんせ鳥取・因幡の国キャンペーン」「山陰・なかうみキャンペーン」を実施
- ・公共交通の利便性向上に係る、両備グループとの協力関係を構築
- ・三江線活性化事業を通じた地域との対話を実施

⇒地元自治体等と連携を図りながら、事業活動を通じた地域の活性化に向けて取り組みを推進

### ■社会貢献活動の充実

- ・支社ごとに社会貢献活動に関する「重点活動」を新たに定め、計画的に活動を実施。特に地域に根ざした活動事例を集約し、企業ホームページ等で定期的に紹介

⇒社員の地域社会への積極的な参加を奨励

- ・東日本大震災を受け、被災者に対する救援活動に参加する社員を対象として、「東日本大震災ボランティア活動支援金」制度を整備

⇒多くの社員が制度を利用し、活動に参加

## 推進責任者による総括と今後の方針

### ■平成22年度の総括

「地域との共生」という戦略では、5つの部門横断型推進チームが中心となって取り組みを進めました。ハード面の整備は、駅設備を中心に進捗が見られますが、ソフト面では取り組みが緒に就いたばかりと言えます。

また、職場ごとの社会貢献活動には、多くの社員が参加しましたが、本社をはじめ、間接部門社員を中心に、未だ活動が活発ではないと考えられます。

### ■今後の方針

「琵琶湖線」「JR神戸線」を線区価値向上のモデル線区とし、駅機能の充実やバスアクセスの改善等を進め、快適で利便性の高い「生活圏」を創造します。また、広島地区・岡山地区を中心とし、関係自治体や他の公共交通機関との連携を強化し便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりに貢献します。さらに、平成24年秋の「山陰デスティネーションキャンペーン」を見据え、山陰エリアをモデルに、観光キャンペーンの実施等、地域と連携した取り組みを試行、検証していきます。

このような取り組みのベースとして、今後は各地で社会貢献活動を計画的に実施し、また、より多くの社員が活動に参加できるように、社内外に広く情報を発信して、活動の輪を広げていきたいと考えています。



取締役兼常務執行役員  
総合企画本部長  
来島 達夫

## 事業活動を通じた西日本地域の活性化

地域起点の発想に立って、地方自治体や他交通機関等との連携を強化し、トータルでWIN-WINの協力関係を構築していきます。「快適で利便性の高い『生活圏』の創造」「より質の高い安全・安定輸送の提供」「便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりへの貢献」「観光を契機とした地域活性化への貢献」「ご利用状況に応じた最適な地域交通の実現」といった5つの部門横断型推進チームを立ち上げ、グループ一体で取り組むことを通じて、地域の皆様のより豊かな暮らしを支えています。

### 近畿エリアを中心とした線区価値向上

#### 快適で利便性の高い「生活圏」の創造

「駅及び街の機能が充実し、使い勝手が良く、住みたくなる線区」の創造に向けた取り組みを推進しています。



具体的には、トイレやホームベンチのリニューアルを行うなど、駅設備の改良を行っています。また、駅へのアクセスをよくするために、バスでのアクセスを改善し、都市型レンタサイクル「駅リンクン」の拡充や駐輪場設置の計画にも着手しています。

さらに、地域の特徴にない、子育て世代にもご利用いただきやすい魅力ある線区を目指して、平成23年度には認可保育所の誘致といった保育施設の整備にも取り組んでいます。



認可保育所の誘致 (幸和園保育所 JR西宮駅NKビル1階)  
当社では初めて認可保育所を誘致しました。同日、JR放出駅NKビルにも認可保育所「みつばさ保育園」を誘致しています。



駅の改良 (南草津駅)  
南草津駅への新快速停車にあわせ、トイレのリニューアル、ホームの美化等を行いました。

「子育て世代」に向けた無料沿線情報誌「とことん」の発行  
平成23年10月から新たに、「こどもと一緒にの毎日」をコンセプトに、沿線にお住まいの子育て世代の方々の生活や、お子様とのおでかけをサポートする沿線情報誌を発行しています。



### 滋賀県とJR西日本との包括的連携協定の締結

滋賀県内の地域と鉄道の持続的な発展を目指して、滋賀県と当社の「包括的連携協定」を平成23年2月に締結しました。協定に示した右の7つの事項について、相互に連携・協力し、様々な取り組みを推進することを通じて、線区価値の向上や便利で住みやすいまちづくりに貢献していきます。



包括的連携協定 締結式の様子

- (1) 駅を核としたまちづくりに関すること
- (2) 駅を中心としたアクセス改善に関すること
- (3) 低炭素社会の実現と環境保全に関すること
- (4) 観光・文化の振興・交流に関すること
- (5) 子育て支援、青少年の健全育成、高齢者・障がい者支援に関すること
- (6) 地域の暮らしの安全・安心の確保及び災害対策に関すること
- (7) その他、滋賀・びわ湖ブランドの推進、県民サービスの向上及び地域と鉄道の持続的発展に関すること

### 「京都太秦メディアパーク構想」への協力

京都府が推進する「京都太秦メディアパーク構想」の一環として、東映太秦映画村のリニューアルが進められており、その第一弾として東映太秦映画村の西側に新しい入口(撮影所口)が設置されました。これにより、太秦駅から東映太秦映画村まで徒歩5分となり、大変

便利になりました。

このリニューアルにあわせ、太秦駅を「映画のまち太秦」の玄関口としてふさわしい駅となるよう、京都府や京都市、東映(株)と連携し、駅設備の整備や装飾等に取り組んでいます。

#### 支社長から

執行役員  
京都支社長  
二階堂 暢俊

京都支社では、エリア内の行政機関等の皆様とトップ同士、あるいは担当者同士が直接コミュニケーションを図ることを通じて信頼関係を築くことを重視しています。本音で議論するなかから、持続可能性のある施策の展開につなげていきたいと考えており、地元と連携した観光振興やまちづくり等の面で、具体的な成果も徐々に出てきています。

また、現場や地区会の皆さんも、駅周辺や沿線の美化活動や地元行事に積極的に参加するなど、地域に根ざした活動にも積極的に取り組んでおり、地元の皆様から評価をいただきつつあります。



## 「ウエストテラス膳所におの浜」 (膳所におの浜社宅)での、防災関連設備の設置

平成23年2月に竣工した新社宅「ウエストテラス膳所におの浜」では、災害時に地域に貢献できるよう、防災関連施設を設けています。

→社宅の詳細については、P50をご覧ください。

- 防災倉庫内には救急セットや防災グッズを収納、屋上にはソーラーによる発電設備を設置
- 下水本管に直結できる防災トイレを設置
- 通常時にはベンチとして利用し、非常時には焚き出しのできる、かまどベンチ等を設置
- 上水道が使えない場合、琵琶湖の水から飲み水を作ることのできる災害用浄水器を常備



防災設備を備えた社宅内の公園



かまどベンチ



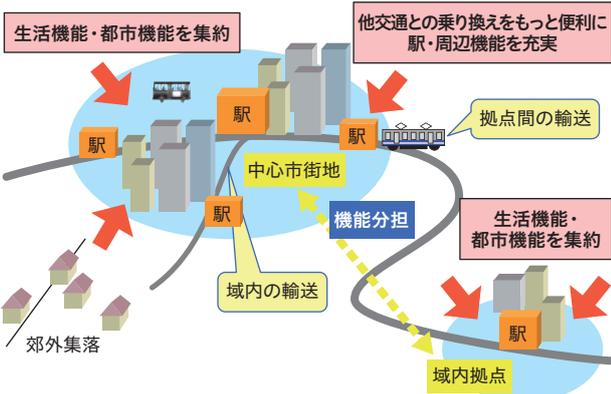
防災倉庫

## 西日本エリアにおけるプラスサム実現

### 便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりへの貢献

駅での他の交通機関への乗り換えをよりスムーズにすることで、地域にとってより便利な公共交通を目指しています。地元自治体や地域の皆様と協力し、「まちの玄関口」としての駅・周辺の機能を充実させ、駅からはじまるまちづくりに向け、主体的に役割を果たします。その具体的事例として、平成22年11月には、岡山県内の公共交通の利便性向上に向けた相互協力に係る「両備グループとの覚書」を締結しました。

また、駅等の拠点に生活機能・都市機能を集約することで、より効率的な都市運営に参画し、コンパクトシティの構築に積極的に貢献していきます。



山陰線倉吉駅リニューアル



山陽線西条駅橋上駅舎  
(平成25年秋完成予定)

## 観光を契機とした地域活性化への貢献

交通部門に限らず、幅広い分野で地域と連携し、地域への集客と、お越しいただいたお客様へ充実したおもてなしを行い、地域と協働して観光開発を推進しています。

とりわけ、平成24年秋に予定している「山陰デスティネーションキャンペーン」に向け、地元自治体や観光事業者と緊密なコミュニケーションを図り、その成果を最大限に引き出しています。

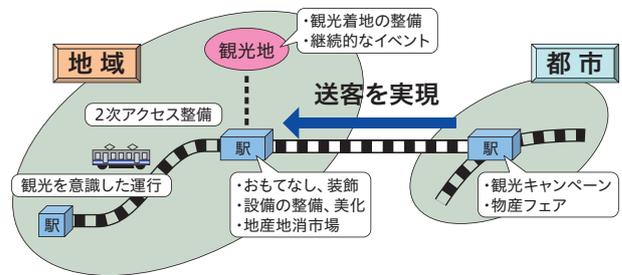


キャンペーンパンフレット



観光PRイベント(大阪駅)

「山陰デスティネーションキャンペーン」のプレキャンペーンとして、平成23年春の「来なんせ鳥取・因幡の国キャンペーン」、平成23年秋の「山陰・なかうみキャンペーン」を地元と共催し、着地整備や情報発信を促進しました。



### 「来なんせ鳥取・因幡の国キャンペーン」実施に向けた取り組み

山陰地方は、山の「陰」と表されることから、お客様が鳥取に対し暗いイメージを抱かれているのではと感じています。このイメージを一掃したいと、お客様に目を留めていただける明るい雰囲気づくりをコンセプトに、駅の装飾に取り組んでいます。また接客面では、鳥取市の玄関口として、元気な駅を感じていただきたいと、まずは改札口で全社員が笑顔で会釈することから取り組み始めました。

こうした活動に皆が楽しく取り組むことで、その活気が駅構内のショッピングセンターや市民の皆様にも、輪が広がるように伝わればと思います。そして、訪れる観光のお客様に元気なまちだと感じていただけるよう、取り組みを継続していきます。



鳥取鉄道部  
鳥取駅 管理係  
北垣 友美(左)  
鳥取鉄道部  
鳥取駅 管理係  
中原 真道(右)  
(現 米子支社営業課)

## ご利用状況に応じた最適な地域交通の実現

引き続き、地元自治体との連携や地域の協議会等を通じ、鉄道の活性化に対する協力関係を構築していきます。

また、ご利用状況にあった最適な輸送モードへの転換に対する理解も深めていただくなど、地域との対話に努めていきます。

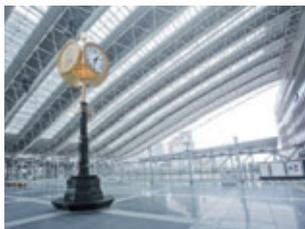
大阪ステーションシティの開業と今後について

平成23年5月4日、関西・大阪の玄関口として、7年にわたり開発を進めてきた大阪ステーションシティが開業しました。開業当日には、ノースゲートビルディングに約50万人ものお客様にお越しいただき、その後も引き続き多くのお客様にご利用いただいております。期待の大きさをあらためて実感しています。

この新しい「まち」では、大型商業施設やオフィス等の様々な機能のほかに、大規模なドーム空間や、様々な特徴を持った個性ある8カ所の広場等、今までの駅にはない新しい魅力を創造することができました。今後は、大阪駅の南北を結ぶ通路をはじめ、歩行者に優しいネットワーク整備により、駅周辺地区の回遊性や利便性が向上したことを活かし、周辺各事業者の皆様と連携したエリア全体での魅力づけや情報発信を積極的に行うなど、大阪ステーションシティを通じて、大阪駅周辺地域全体の活性化に寄っていきたくと考えています。



大阪ステーションシティ全景



時空の広場



開業時の様子



取締役兼専務執行役員  
創造本部長

矢吹 静

大阪ステーションシティの見所

「発見。感動。OSAKA Grand Station」をコンセプトに開発した大阪ステーションシティ最大の見所のひとつが、様々な特徴を持った8つの広場です。「水・緑・時・エコ・情報」を共通テーマに開発した、関西・大阪の玄関口にふさわしい大きなホールを思わせる風格ある広場や大阪駅の新たなシンボルとも言うべき巨大なドーム屋根の下に広がる「時空の広場」をはじめ、自然の恵みや四季の彩りに満ちた広場、屋上の「天空の農園」まで、個性豊かな広場があります。これらにより、単なる商業施設の集積ではなく、お客様に憩いや賑わいを提供し、あたかも「まち」で過ごすように思い思いの時を過ごしていただける空間になっています。

そのほか、ドーム屋根を活用した雨水の再利用や、ホーム上屋等の太陽光発電等、環境に配慮した取り組みも行っています。



天空の農園

開発に携るすべての人が「自然」と「本物」にこだわって広場づくりを進めてきました。タイル1枚、木1本にも専門家の方を交え、とことんまで話しあい、四季を感じられる素材や演出を考えてきました。だからこそ従来の駅ビルにはない、発見・感動のある、新しい「まち」が創造できたと感じています。

今後も、また行きたい、何度でも行きたいと思っていただけるよう、お客様や関係者とのコミュニケーションを大切に、より一層魅力あふれる「まち」をともに創り育てていきたいと思っております。



大阪ターミナルビル㈱  
営業部プロモーション課 課長

山崎 香織

地域との共生

大阪駅改良工事における安全管理

安全確保のため、すべての協力会社に鉄道工事のルールを徹底し、工事所全員で現場巡回を行いました。現場を見慣れた社員とは異なる視点でリスクを発見するため、担当以外のエリアを相互に巡回するなど、細かな所にも目を配り、釘一本の落下も起こさせないという厳しさをもち工事を進めてきました。

また、隣接企業の方々に工事の安全性をご理解いただくため、様々な写真や図面により、ご説明を重ねてきました。厳しいご意見、ご要望をいただくこともありましたが対話を重ね、少しずつご理解をいただきました。

開業後、お客様から「便利になったね」と言っていたいただいた時の感動を忘れず、今後も安全で快適な施設を作り続けようと思っております。



大阪駅改良工事所 施設管理係

西尾 昌之

事務所長から

大阪工事事務所長  
土肥 弘明

大阪工事事務所では、当社最大のターミナルである大阪駅の改良工事を行い、着手から7年の歳月を経て、無事に開業を果たしました。

新しい大阪駅のシンボルである東西約180m、南北約100m、総重量3,500tのドーム屋根は、営業終了後、ホームや営業線上空で連夜スライドさせて設置し、幅40m、長さ80m、高さ12mの橋上駅舎は、2分割し4ヵ月かけて送り出しました。駅構内は大規模な配線変更を行い、着発線を集約し利便性を向上させるとともに、列車ダイヤの柔軟性を向上させました。また、営業線近傍での大規模掘削を伴うノースゲートビルディング新築等、当社の建設部門が持つ技術の粋を結集し、無事故で工事を完遂しました。



## 社会貢献活動の推進

地域とともに生きる企業でありたいと考えており、事業活動に加え、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。事業と関係が深く、主体性を発揮し得る「安全」「地球環境」「社会福祉」「鉄道文化」「地域社会」の5分野を中心に、今ある取り組みを大切にしながら、世の中のニーズに応じて、地域の皆様とも連携して活動の輪を広げ、息の長い、力強い取り組みに育てていきます。

### 会社としての活動

#### 「旅育」の実施

次世代を担う子どもたちの健全な育成を支援するため、小学生・幼稚園児等の皆様を対象に、駅見学に列車の体験乗車を加えた課外学習プログラム「旅育(たびいく)」を実施しています。

平成22年度からは山陽新幹線「こだま」号に加え、在来線特急列車にも拡大し、鉄道の利用方法や乗車マナー等について、楽しく学んでいただいています。



和歌山駅での「旅育」の様子

#### 博物館の運営、鉄道文化遺産の保護

鉄道の歴史、文化を知り、魅力にふれていただくため、(公財)交通文化振興財団が交通科学博物館(大阪市)、梅小路蒸気機関車館(京都市)を運営しています。またSLを実際に運転できる状態で整備・保存し、地域のご協力を得ながら山口線や琵琶湖線で営業運転を行っています。そのほか、エリア内の各地で鉄道



文化遺産の保存・展示も行っています。

平成23年2月、梅小路運転区では、ポニーの愛称で親しまれるSL「C56形160号機」の、4年に1度の全般検査が公開されました。

#### 鉄道少年団の活動支援

青少年の交通徳の高揚を目的に、(公財)交通徳協회가運営している「鉄道少年団」の活動を、会社発足以来、支援しています。



平成23年8月には、宮島でサマー研修が行われました。

#### 京都における取り組み

京都では、地元有識者のご意見をいただきつつ、観光シーズンの市内交通渋滞緩和を目指した「鉄道+徒歩」による観光のPRや、社員有志による観光案内ボランティアに積極的に取り組んでいます。また、京都の伝統的な服飾文化の情報発信を目的としたファッションショー「Fashion Cantata from KYOTO」を平成4年から継続して行い、京都のファッション産業と観光産業の振興に協力しています。



19回目となる平成23年のカンタータは、西本願寺で開催され、京都の和装文化と最新の洋装文化のコラボレーションが披露されました。

#### 文化・スポーツ活動等を通じた地域交流

文化・スポーツ等に関するクラブ活動を通じ、青少年の育成や地元の方々との交流に努めています。



JR西日本プラスバンド連盟は、病院等で演奏を行い、地域の皆様に快適な時を過ごしていただいています。平成22年には大阪鉄道病院でクリスマスコンサートを行い、お客様全員に手づくりのクリスマスカードのプレゼントも行いました。

#### 文化芸術活動に関わる近年の受賞歴

受賞年	受賞内容・受賞者
平成22年9月	・京都創造者賞2010(アート・文化部門) / 主催: 京都府・京都市ほか ・「Fashion Cantata from KYOTO」
平成22年10月	・日本鉄道賞表彰選考委員会地域観光振興賞 / 主催: 「鉄道の日」実行委員会ほか ・嵯峨野観光鉄道(株)
平成23年9月	・京都創造者大賞2011 / 主催: 京都府・京都市ほか ・嵯峨野観光鉄道(株)

#### 災害復旧への協力

平成23年3月の東日本大震災や、平成22年7月の山口県での豪雨災害に際し、当社社員やグループ会社社員が、土砂搬出



や瓦礫撤去等のボランティア活動を行いました。

美祿線の運転再開を前に、美祿駅周辺で当社社員、グループ会社社員、OBのほか、美祿市職員の方々、約30名が駅周辺清掃を実施しました。

#### 東日本大震災に対する支援

平成23年3月11日の東日本大震災を受け、JR東日本及びJR貨物に対し、物資の支援を行うとともに、グループ会社が東北新幹線・東北本線の復旧作業に参加しました。また、被災地域の方々に対する支援として、義援金の拠出、医療分野での協力等を行いました。

さらに、災害支援等に参加した社員等に対し、会社として支援金の支給も行っています。

東北の方に早く元の生活に戻っていただきたいの思いから、同僚4名と5日間、宮城県多賀城市でボランティア活動を実施しました。

瓦礫撤去作業では、ボランティアセンターの方がスコップを準備して下さったり、現地の方がゴミ袋を運んで下さる様子を拝見し、自分たちの活動が、多くの方々に支えられていると感じました。同時に仕事でも、保線作業や車両点検をしてくれる仲間の支えがあってこそ、1本の列車を安全に運転できると再認識し、感謝の気持ちで胸が熱くなりました。

今後も周囲への感謝の気持ちを忘れず、お客様の安全を守っていきます。



徳山地域鉄道部  
徳山乗務員センター  
運転士 車掌  
田村 英臣(左) 河村 篤志(右)

## 職場ごとの活動

### 安全教室の開催

地域の子どもたちに安全に鉄道をご利用いただくため、社員の有志が近隣の小学校等で安全教室を開いています。



岩国運転区のCS推進チームは、安芸郡の幼稚園で、踏切の通行方法を、手づくりの電車や教室内に設置した模擬踏切を使って、楽しく学んでいただきました。



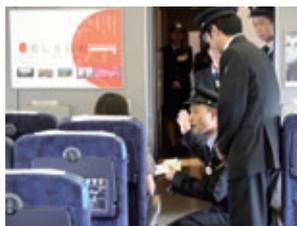
福岡地区では、沿線の幼稚園で踏切安全教室を定期的に開催しています。踏切の正しい渡り方や非常ボタンの扱い方を実演したほか、ペーパークラフトづくりにも挑戦しました。

### 駅や車両所における見学受入・工場公開

鉄道に親しみ、鉄道の仕事を知らせていただくため、地元自治体や、幼稚園・小学校等のご要望にお応えし、当社の施設見学等を実施しています。また、大規模な車両工場は年1回、地域の皆様に広く公開しています。



吹田工場では、吹田市制施行70周年記念事業の取り組みのひとつとして、地元観光協会からの要請を受け、工場見学のバスツアーを受け入れました。



平成2年から、大阪市の小・中・高等学校の教職員を対象とした「民間企業研修」を実施し、当社の安全・CS・地球環境等への理解を深めていただいています。

### 地域と連携した清掃活動

支社やグループ会社、職場ごと、またOBの方々とともに連携しながら、沿線の観光地、駅周辺での清掃活動に参加しています。



地元自治体、警察等と一体となり、城東貨物線の落書き消しを実施しました。



世界遺産を保全し、自然の大切さを広く知ってもらうため、平成19年から、和歌山県世界遺産センター長の指導のもと、当社社員、OBやグループ会社社員が道普請を実施しています。

### 地域イベントへの参加・開催

沿線地域の活性化に努めるため、地元主催の祭やイベントに、地域の一員として積極的に参加しています。また、駅施設を開放し、地域の方々にお楽しみいただけるイベントも開催しています。



七尾線電化開業20周年を記念し、地元ゆかりのキャラクターを使ったラッピング列車の運行を開始し、羽咋駅で出発式を開催しました。



備前焼陶友会の協力をいただきながら、岡山県と共同で「晴れの国おかやま『駅ナカミュージアム』」を岡山駅コンコースで開催しています。

→地球環境に関する取り組みは、P39～44をご覧ください。

→社会貢献活動の取り組み事例についてはこちらをご覧ください。  
<http://www.westjr.co.jp/company/action/contribution/>

## 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団を通じた活動

JR西日本あんしん社会財団は、福知山線列車事故を契機として、当社の寄付拠出により設立された公益財団法人であり、「安全で安心できる社会」の実現に寄与する事業を行っています。

いのちについて考え、支え助けあう社会を目指す取り組みとしての「こころのセミナー」や鉄道を素材に安全について考える「安全セミナー」の開催のほか、JR西日本との共催によりAEDの使用や心肺蘇生法等を体験できる「救急フェア」を実施し、市民による初期対応、初期救護の重要性を啓発しています。

また、上智大学グリーンケア研究所の公開講座「悲嘆について学ぶ」や京都大学「社会基盤安全工学講座」への寄付助成等をはじめ、心身のケアや地域社会の安全構築、そして東日本大震災からの復旧・復興に向けた活動等への公募による助成も行っています。



「救急フェア」の様子



公募助成贈呈式の様子

### 助成先の方からの声

財団からの助成で、災害弱者である高齢者や障がい者の方を中心に防災意識の向上を担う拠点として、大阪市東淀川区に「地域防災センター」を開設することができました。

同センターでは、防災講座のほか、展示等を通じた防災グッズの普及促進や防災アドバイザーの育成、さらには高齢者や障がい者の方が集う場として、地域コミュニティの活性化に大いに役立っています。



NPO法人あすかコミュニティ  
(防災センター開所式の様子)

財団設立3年目を迎え、少しずつではありますが、活動も充実してきました。今後は、より一層「地域との連携、共生」を意識し、安全で安心できる社会の実現に向けた活動を進めていくよう全力を尽くします。



JR西日本あんしん社会財団 課長  
山内 伸亮